

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0871200416		
法人名	有限会社 梨花園		
事業所名	グループホーム梨花園(B棟)		
所在地	茨城県常陸太田市上土木内町382		
自己評価作成日	平成23年11月25日	評価結果市町村受理日	平成24年2月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871200416&amp;SCD=320">http://ibaraki-kouhyou.as.wakwak.ne.jp/kouhyou/infomationPublic.do?JCD=0871200416&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町字千東4637-2		
訪問調査日	平成24年1月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域密着型グループホームとして、利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して生活できること。残された機能を引き出し、維持と予防に心がけること。人格を尊重し、個々の要望を愛情ある心で受け止めることを理念とし、職員一人ひとりが取り組んでいる。尚、当園はのどかな田園の中にあり、四季折々の季節を感じながらの生活は、利用者にとって楽しみであるとともに癒しの空間である。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

のどかな田園地帯の中で、利用者は四季折々の移り変わりを感じてのんびりと生活を楽しんでいる。笑顔の絶えない支援を心がけていると管理者・職員から話があったが、まさにその光景を調査時に何度もみかけた。近隣住民との交流は近隣の理解を得るのに難しい状況下であるが、災害時には地域の安心拠点として提供することを運営推進会議で話し、災害訓練等を利用して(地域の一層の理解を得るため)地域に積極的に働きかけている。3・11震災時には地域住民から声掛けがあり、これを機会にさらなる地域連携を考慮中との事。お天気の良い日は散歩に出かけ住民と挨拶や会話を楽しんでいるが、近くに買物等に行けるお店が無いので外出するイベントを多く企画・実施し積極的に外出支援に努めている。最近はお店の提供を受けることもある。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示、又名札の裏に入れて見やすくし、常に理念を念頭に業務を行っている。朝礼時に理念を斉唱し徹底をはかっている。	地域交流を積極的に行い家庭的な雰囲気作り・残存機能の維持と予防・人格を尊重し、利用者の要望を支援するという理念を朝礼時に唱和したり、名札の裏に入れて、サービス提供時に職員は確認を行いながら、利用者の支援に努めている。職員からは常に理念を念頭に入れて実践につなげていると、聞いた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高齢化が進んでおり、老人会等の活動も不活発である為、日常的な交流には致っていない。とともに地域の老人の半数を施設入所者が占め、敬老会は別での申し出があった。	地域住民との交流を積極的に行うことはなかなか難しい状況下ではあるが、日々の散歩時に挨拶を交わしたり、立ち話をしている。ボランティアの受け入れは社協を通じ(ハーモニカ・大正琴・二胡・ハンドベル等)行っている。時には利用者が涙を流し感激しているときもあるという。スイカや柿の提供を受ける時もある。災害時に緊急避難場所として地域に提供している。クリスマス会や防災訓練には回覧を回し参加を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当施設を災害時の緊急避難場所として登録し、提供している。又、散歩時などに近隣の人に挨拶等、声をかけ、できるだけ談話できるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催、市の担当者、町内会長、民生委員、家族の代表等の情報交換を行い、サービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに行政・町内会会長・民生委員・家族代表・事業所関係者の構成メンバーで開催し、研修報告・行事予定・報告・消防訓練・ヒヤリハットの報告・改善につき話し合いを行い、第3者的立場からの委員の意見をサービス向上に活かしている。家族からぶどう狩りや利用者にとってもっと楽しめる場所のアドバイスや料理、買物について提案があった。家族には事務所前にファイルを置き、面会時に見てもらおうようにしている。職員には重要内容を管理者から伝達している。	なかなかファイルしている書類に目を通す事は少ないと思われるので、家族に対して運営推進会議の意義や事業所の取り組みを伝えるためにも、議事録を梨花園便りに同封したり全職員に対しても会議内容を周知されることが望ましい。

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とは常に話し合える関係を持ち、月に1回～2回定期的に訪問、現状等の報告指導を受けている。	行政担当者・福祉事務所とは連絡を密にとり、事業所の実情やサービス内容を伝えて、アドバイスを受け協力関係を築いている。事業所のパンフレットを行政窓口においてもらっている。グループホーム連絡協議会に参加し行政と情報交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践  代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については職員研修及び拘束廃止委員会において徹底をはかっている。	身体拘束における具体的な行為・弊害について研修を開催し、管理者・職員ともに利用者の安全を保つ支援を行っている。玄関は死角になっているのと、すぐ前が用水路のため、安全防止のため家族の同意をとり施錠している。車椅子の点検は随時職員が実施。スピーチロックには職員同士で注意をしている。自室のセンサー等で対応する場合もあるが、利用者の状態に応じオン・オフにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修にて虐待とは何か、学習、理解し、防止の徹底をはかっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点での要望はない。職員研修を実施しており制度としては理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、管理者が対応、十分な説明をし納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	個別のアセスメント時に意見を聞くと共に日常会話や訴えの中からも吸い上げるようにしている。又、ご意見箱の設置やご家族の面会時等に意見や要望を聞き反映できるようにしている。	意見の言い出しにくい家族・利用者に対して意見箱の設置・第3者相談窓口を明示しているが、実際には意見等は無い。利用者の日々の会話から取り上げたり、面会時に家族から聞くように努めている。今後は梨花園便りに返信用はがきを同封し意見の吸い上げを行いたいとの事。	

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議で意見や提案を聞き運営に反映させるよう努めている。	毎月の職員会議で積極的な意見交換が行われ、意見や提案を(業務の割り振り・浴室用フラット椅子の使用・その他備品購入)運営に反映させている。職員から管理者には何でも言える関係であるとヒアリング時に話があった。会議以外にも日々の現場での提案が多い。職員のストレス・不満がたまらないように表情から察し管理者が声掛けをし、解消に努めている。研修・勤務体制は希望通りである。職員からは充実感のあるやりがいのある職場であるという意見であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事に対する努力や実績については賞与等で報いられるよう努めている。又、資格を取得してスキルアップできるよう奨励している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への積極的参加及び月1回の内部研修により職員の資質向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回のグループホーム連絡協議会に参加している。又、連絡協議会主催の勉強会を開催している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	積極的に本人に話しかけたり、本人から話を聴いたり、又様子を観察しながら、信頼関係を築き安心感を与えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面会を通して、不安な事や困っている事、要望事項をじっくり聞き信頼関係構築に努めている。		

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と面会、相談し必要としている支援を見極め必要な時に、必要な支援が提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々の持てる力を最大限生かせるようサポートするとともに、本人ができることは、してもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族、兄弟、姉妹、親せき等が面会に来ることがあるので、良好な関係をとり続けられるよう支縁(縁を支える)している。又、手紙や電話等で近況を報告している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、兄弟、姉妹、親せき等が面会に来ることがあるので、良好な関係を取り続けるための縁をつなぐ縁助(縁を助ける)応縁(縁に応える)に努めている。	電話で家族と連絡をとりあったり、ホーム便りに利用者のコメントをいれてもらったりし、家族との関係継続に努めている。年賀状の支援も行っている。親戚縁者が面会に来たり、家族の協力により、お墓参り・理・美容院に出かけ馴染みの人や場所との関係が途切れないように努めている。新聞購読を続けている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良好な関係で過ごせるよう職員が間に入り配慮している。又、利用者同士が声を掛け合ったり、できることをしてあげたりとお互い助け合っている事も見受けられる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	重度化して病院に入院し、退居を余儀なくされた場合でも、定期的に面会し、相談や支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント時に一人ひとりの希望や思いを聴くように努めている。又、意志表示できない方については日常生活状況等を参考に、その人らしい生活を作れるよう努力している。	アセスメントや日々の会話の中から利用者の希望や思いの把握に努めている。特に入浴時にふと話す内容が利用者の本音を聞けるいい機会でもある。困難な場合は家族に聞いたり、利用者の表情から読み取り、利用者本位に検討を重ねている(利用者の笑顔が出るような支援方法に取り組んでいる)。利用者の趣味や得意分野(食器洗い用編み物・雑巾等縫い物・園芸)で個々が発揮できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時に本人、家族から生活習慣、生活環境、趣味嗜好、生活歴等を聞くように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の様子を観察しながら、又、日常の会話や表情から、心身状態、有する力を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	その人らしい生活、あたり前の生活を提供できるよう、計画作成時及び必要に応じケアカンファレンスを開催。本人や家族、スタッフと話し合い、介護計画や日々の介護に生かしている。	家族・利用者の意見を聞き、利用者の課題とケアのあり方に付いて全職員で検討し、現状に即したケアプランを作成している。作成後は家族の同意を得ている。ケアプランとケース記録は連動し、3ヶ月毎のモニタリング・評価に活用できるようになっている。6ヶ月毎にセンター方式でアセスメントが行われていた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのケアの実践や日々の様子などを具体的に記録し、情報を共有するとともに介護計画に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	行政への代行、病院への入院や通院、買物の同行など柔軟に対応している。		

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、消防署等の協力を得ながら支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の定期的な往診を受けている。その他定期的な検査及び急変時、必要に応じ職員が付き添い受診している。	協力医院から月1回の往診を受けている。かかりつけ医受診には家族の付き添いで受診。家族の都合が悪いときや緊急時には職員が付き添い受診している。家族・ホームとの受診結果は電話連絡・面会時や梨花園便りで報告している。歯科医の往診もあり専門医の受診も可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康管理は看護師と連携をとりながら支援している。又、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきは看護師に伝え適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、できるだけ面会に行き安心して治療できるようにするとともに病院関係者と情報交換し、早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については家族と話し合い、施設でできること、できないことを明確にし、主治医と相談して、方針を共有し、支援に取り組んでいる。	現在は24時間対応の医師の確保が出来ないので看取りは行っていない。緊急時・重篤時には医療機関への搬送するということを、家族に契約時に説明し、承諾を得ている。重度化になったときは主治医・家族・管理者と話し合い、今後に向けた支援に取り組んでいる。	契約時に説明をし、承諾を口頭で頂いているが、きちんと書面で承諾書(同意書)を整備することが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修、内部研修を通して又、消防署の協力を得ながら実践力をつけるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	常陸太田消防署の協力を得て、年2回定期的に防災訓練を実施し、万一に対処できるよう努めている。	消防署の指導で年2回、地域住民にも参加を呼びかけ避難訓練を実施している。(地震・けむり体験・夜間想定・避難経路・利用者の行動確認・消火器使用方法等) 緊急時避難場所として地域に開放。3・11震災時は近隣も被害を受けたので協力は無かったが、声掛けをしてもらい安心したという。備蓄品(米・飲料水・缶詰等)は数日分用意をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳やプライバシーについて又、言葉がけや対応については内部研修を行い徹底している。個々の記録についてはスタッフにしか取扱いできないようにし、又、見られないようにしている。	人生の先輩として利用者を尊重した対応を行っている職員から聞かされ、訪問時に拝見するとその通りであった。書類関係の保管は個人情報保護に努めている。面会簿は個人用を使用。ホーム内や便りの写真掲載については早急に家族から同意書を取り交わすとの事。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員側から強要せず、本人が決め納得しながら生活できるよう配慮している。(服の選択など)		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、その人の希望に沿った、そして「今」を思いきり瞬間瞬間をその人らしく生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張美容、理容を利用したり又、本人の希望する美容院へ行ったり、買物の依頼を受け手伝ったりの支援をしている。		



茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員ができる限り一緒に配膳や片付けをしている。月2回、スタッフも一緒に食事をし、それ以外の日は、各テーブルに付き会話等楽しみながら食事できるようにしている。	献立は利用者の希望を聞いて取り入れている。調理は専門職が行っているが、利用者の出来る範囲で配膳、下膳を行っていた。介護度が高くなり見守り支援を重要視しているため、全職員で食卓を囲むことは月2回。通常1-2名の職員が利用者と食卓を囲みながら会話を楽しんでいる。調査日は全職員が利用者とテーブルを囲み楽しい食事風景であった。おやつ作り(ホットケーキ等)は利用者が楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量、形態は一人ひとり違っているが一日の摂取量はチェックしている。又、一日の水分摂取量もチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを行っている。(義歯の洗浄、定期的な歯科往診)		
43	(16)	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、一人ひとりの排泄パターンをつかみできるだけトイレ(PTイレ含)で排泄できるよう支援している。(定期的な排泄の声かけ誘導)	個々の排泄パターンの把握や表情からトイレに前誘導しトイレでの排泄や排泄自立に向けた支援を行っている。オムツからリハビリパンツ・パット・布パンツと改善されている。声掛けは他の利用者に分からないように支援されていた。失禁時の対応もプライバシーに配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜等の繊維を多くした食事と体操、散歩などできるだけ身体を動かすようにしている。		

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決めているが、本人の希望又は、体調を見て臨機応変に対応できるようにしている。又、自分のペースでゆっくり入浴できるようにしている。	一応入浴日・時間は決めているが、利用者の希望があれば入浴可能である。季節に応じてゆず湯・菖蒲湯等を提供している。利用者がユックリ気持ちよく入浴出来るように努めている。感染症の予防に注意を払っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの様子を見ながら居室に誘導し、休息や安心が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが使用している薬についておおむね理解している。又、服薬の確認及び症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割を習慣化して張り合いや喜びのある生活がおくれるよう支援している。(唄う楽しみ、物をつくる楽しみ等)		
49	(18)	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのイベント等、外出の機会をできるだけ多く作るよう努めている。(花見、ぶどう狩り、紅葉狩り等)又、誕生日には外出をしている。	近隣を散歩し自然の移り変わりや外気浴を肌で感じてもらう支援を行っている。なかなかすぐに買物等に行けない環境であるので、誕生日に外食やイベントを多く企画し外出する機会を多く設けている。家族の協力により外出する利用者もいる。(墓参り・美容院・親戚宅・自宅等) 一泊してくる利用者もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な入所者については、お金を所持させている。個別に管理しているとともに必要に応じて買物等の支援をしている。		

茨城県 グループホーム梨花園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族への電話の希望があれば取り次ぎ又、梨花園だよりにコメントを書いたり、手紙を出すなどの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感をできるだけ感じてもらえるよう掲示物を工夫している。又、共有空間の整理整頓に努め不快感を与えないよう配慮している。	天窓から暖かい日差しがそそぎ、利用者はリビングでゆったり過ごしている。季節の草花や飾り物が利用者や訪問者の心を和ませている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアや玄関ロビーにソファを置き利用者同士がくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に本人の好きなものを置いたり飾ったりしている。又、ご家族にもなじみのものや写真等持参頂くよう依頼している。	家族に馴染みの物や好みのものが利用者の安心できる居室であることを説明し協力を得る努力は行っているが、持ち込みは少ない。小物・家族の写真・お人形・孫からの手紙等で癒される工夫があった。お茶碗・コップ・箸等は個人の持込であった。また、乾燥対策として霧吹きで水をカーテンにかけたり、濡れタオルを各居室に下げて、インフルエンザ予防に努めていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリー化し、安全に配慮している。又、一人ひとりのわかること、できることを活かし自立した生活ができるよう工夫している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成24年 2 月 21 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	なかなかファイルしている書類に目を通す事は少ないと思われるので、家族に対して運営推進会議の意義や事業所の取り組みを伝えるためにも議事録を梨花園だよりに同封したり、全職員に対しても会議内容を周知されることが望ましい。	ご家族に対し運営推進会議の意義を理解してもらおうとともに梨花園だより発送時に同封する。又、職員に対しても周知徹底をはかる。	H24年1月19日開催の運営推進会議議事録を 1月31日発送分の梨花園だよりに同封した。今後も継続的に実施していく。又、職員に対しては議事録を連絡ノートにはさみ、いつでも見られるようにし周知徹底をはかる。	3ヶ月
2	12	契約時に説明をし承諾を口頭で頂いているが、きちんと書面で承諾書(同意書)を整備することが望ましい。	重度化した場合における対応に関わる指針に文言を追加し、書面で承諾を得るよう整備する。	具体的に文書を作成し整合性を見ながら、できるだけ早く整備する。	5ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。